

2019 年度鱒ヶ沢町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域の水田本地面積の約 42%を主食用米で作付けされ、転作作物では大豆・飼料用米・アスパラガス・そば・小麦の順となっている。また当該地域は中山間地が多く、高齢化、後継者不足等が顕著に進行しており、不作付地の増加を抑制するため、早急に鳥獣害対策を考慮した作物及び土地利用について検討が必要となっている。

2 作物ごとの取組方針等

町の約 1,700 ha（不作付地含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、大豆・麦・飼料用米・アスパラガス・ブロッコリーの維持・拡大を推進していくと共に、新たな高収益作物の検討・導入を図る。

（1）主食用米

品種や栽培技術等を見直し、需要動向等を見極め生産者自らの判断で取り組むように誘導し、生産性向上を図りながら安定した生産を行う。

（2）非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、農業者が蓄積してきた稲作の多収技術や既存農業機械を有効に活用できる飼料用米の生産拡大を図る。飼料用米の本作化や生産拡大にあたっては、県及び地域設定による産地交付金の活用により、多収品種の導入を図るとともに、生産コスト低減の取組を促進するため直播栽培等による低コスト栽培を推進し、安定した生産体制の確立を図り、取組面積の拡大を目指す。

また、地域設定による産地交付金を活用しながら、副産物となる稲わらを畜産農家と連携し、家畜の飼料として利用する耕畜連携の取組を推進し、飼料用米作付の定着化と飼料自給率の向上を目指す。

イ 米粉用米

取組なし

ウ 新市場開拓用米

取組なし

エ WCS 用稲

取組なし

オ 加工用米

土地利用集積や疎植栽培等による生産性向上を図り、実需者との結びつきを強化しながら安定した生産を目指す。

カ 備蓄米

主食用米にかわる作物として安定した生産が可能となる備蓄米について、JA（全農）及び県集荷組合と連携を図りながら、加工用米と一体的に取り組む。

（３）麦、大豆、飼料作物

土地利用集積や大豆狭畦栽培による低コスト化に加えて、弾丸暗渠等の排水対策により増収・品質向上に努めるなど、より生産性を高める取組を推進するため、大豆については、地域設定による産地交付金を活用し、麦については、地域設定の産地交付金の活用により５年後においても、麦・大豆の作付面積を維持し、高品質・単収増量生産を目指す。

また、麦及びなたねの裏作として大豆二毛作の取組に対し、地域設定の産地交付金による支援により、ほ場を有効活用するとともに年間生産量の増大を目指します。

飼料作物については、水田活用の直接支払交付金の活用により、需要者との契約に基づいた作付の推進を行い、作付の定着化と国産飼料自給率向上に努めます。

（４）そば、なたね

県及び地域設定による産地交付金の活用により、土地利用集積による生産性向上の取組を促進するとともに、麦及びなたねの裏作としてそばの二毛作へ積極的に取組み、生産量増大を目指す。

（５）高収益作物（園芸作物等）

アスパラガスの作付・出荷量の県内１位を目指すため、地域設定の産地交付金を活用により、新規の作付を促すとともに立茎栽培の導入を推進し、作付面積の拡大や単収の増大を図る。

また、ブロッコリー、トマト、ミニトマト、にんにく、ねぎ、たまねぎについても水稻の複合経営作物として推奨するため産地交付金を活用する。

そのほか、町内直売所におけるニーズに対応するため、地域設定の産地交付金を活用し、多品目・地元作物の作付、直売所への出荷を推進する。

（６）畑地化の推進

生産性を向上させるために畦畔を撤去したほ場や、高低差のあるほ場を同一高に一時的な造成をしているほ場、または近い将来、水路管理が困難になるほ場については、近隣のほ場の状況を考慮しながら畑地化を推進していく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	698.9	697.0	650.0
飼料用米	131.9	132.0	135.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	0.0	0.0	0.0
加工用米	0.0	0.0	0.0
備蓄米	12.1	9.0	10.0
麦	6.6	17.5	17.9
大豆	308.1	283.0	285.0
大豆(二毛作)	0.0	0.3	1.0
飼料作物	15.1	15.1	15.1
そば	4.4	6.0	7.0
そば(二毛作)	0.0	20.3	21.0
なたね	0.0	14.9	15.0
その他地域振興作物	43.3	46.9	49.8
アスパラガス	35.3	36.7	37.6
ブロッコリー	2.3	2.5	2.8
トマト	2.0	2.2	2.3
ミニトマト	0.2	0.3	0.3
にんにく	0.6	0.8	1.0
ねぎ	0.0	0.1	0.2
たまねぎ	0.0	0.4	0.8
その他野菜	2.9	4.4	5.0

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度(実績)	目標値
1	アスパラガス	アスパラガス新植・改 植取組助成	作付面積 新規・改植取組面積(累 計)	(2018年度)35.3ha (2018年度)3.4ha	(2020年度)37.6ha (2020年度)4.6ha
2	アスパラガス	アスパラガス 立茎栽培助成	作付面積 立茎栽培面積	(2018年度)35.3ha (2018年度)4.4ha	(2020年度)37.6ha (2020年度)5.1ha
3	アスパラガス	アスパラガス振興助成	作付面積 慣行栽培面積	(2018年度)35.3ha (2018年度)27.6ha	(2020年度)37.6ha (2020年度)29.3ha
4	ブロッコリー	ブロッコリー振興助成	作付面積	(2018年度)2.3ha	(2020年度)2.8ha
5	トマト ミニトマト	トマト・ミニトマト新 規拡大助成	作付面積 新規・拡大面積	(2018年度)2.2ha (2018年度)0.1ha	(2020年度)2.6ha (2020年度)0.1ha
6	トマト ミニトマト	トマト・ミニトマト振 興助成	作付面積 (整理番号5の面積を除く)	(2018年度)2.1ha	(2020年度)2.5ha
7	にんにく	にんにく振興助成	作付面積	(2018年度)0.6ha	(2020年度)1.0ha
8	ねぎ・たまね ぎ	ねぎ・たまねぎ 振興助成	作付面積	(2018年度)0.0ha	(2020年度)1.0ha
9	直売所販売作 物	直売所販売作物振興助 成	直売所販売作物面積 直売所販売対象農家数	(2018年度)2.9ha (2018年度)8人	(2020年度)5.0ha (2020年度)13人
10	大豆	生産性向上メニュー取 組助成①	取組面積 農産物検査1等比率 単収	(2018年度)107.7ha (2018年度)20.2% (2018年度)92.0kg/10a	(2020年度)285.0ha (2020年度)27.0% (2020年度)111.0kg/10a
11	小麦	生産性向上メニュー取 組助成②	取組面積 品質検査 1等Aランク比率 単収	(2018年度)6.6ha (2018年度)30.8% (2018年度)154.5kg/10a	(2020年度)17.9ha (2020年度)60.0% (2020年度)175.0kg/10a
12	そば	生産性向上メニュー取 組助成③	取組面積 農産物1等比率 単収	(2018年度)4.4ha (2018年度)46.6% (2018年度)31.8kg/10a	(2020年度)7.0ha (2020年度)50.0% (2020年度)35.0kg/10a
13	なたね	生産性向上メニュー取 組助成④	取組面積 単収	(2018年度)0.0ha (2018年度)168.8kg/10a	(2020年度)15.0ha (2020年度)173.0kg/10a
14	飼料用米 (多収品種)	生産性向上メニュー取 組助成⑤	作付面積 取組面積 労働時間	(2018年度)131.9ha (2018年度)58.5ha (2018年度)36.0時間/10a	(2020年度)135.0ha (2020年度)135.0ha (2020年度)32.0時間/10a
15	そば 大豆	農地の高度利用取組助 成(二毛作)	そば二毛作取組面積 麦及びなたね作付面積に 占める取組比率 大豆二毛作取組面積 麦及びなたね作付面積に 占める取組比率	(2018年度)0.0ha (2018年度)0.0% (2018年度)0.0ha (2018年度)0.0%	(2020年度)21.0ha (2020年度)64.4% (2020年度)1.0ha (2020年度)3.0%
16	飼料用米の 稲わら	農地の高度利用取組助 成(耕畜連携)	耕畜連携(稲わら利用) 取組面積 飼料用米作付面積に占め る取組比率	(2018年度)72.5ha (2018年度)55.0%	(2020年度)90.0ha (2020年度)66.7%